

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業
団体名	川越igoまち倶楽部
市担当課名	教育総務部 教育財務課、地域教育支援課
事業の目的	「地域で子どもを育てよう！」との考えに則り、市内32の学童保育と3カ所の放課後子供教室を対象に、囲碁の出前講座を行う。講師は市内の囲碁団体や星野学園囲碁部の協力を仰ぎ、囲碁の習得に加え、囲碁が内包する力を活用し子どもたちの生きる力を育むと共に、囲碁講師との世代間交流を通じ自己肯定感を醸成、教育現場の負担軽減、囲碁講師のやりがいなど公益性に合致。
事業の実施内容	※キャラバン事業とは囲碁の出前講座のこと ①キャラバン隊員対象の囲碁教え方勉強会⇒R6. 6. 1、12名参加 ②吉原由香里六段による囲碁勉強会⇒R6. 6. 25、学童保育支援員研修53名参加 ③キャラバン隊の派遣募集と日程調整⇒R6. 6～7 ④キャラバン隊派遣⇒R6. 6～R7. 2、計29回実施し、延べ605人の児童が受講 ⑤事業検証⇒R6. 9とR7. 2に参加児童・学童保育支援員・キャラバン隊員を対象にアンケート調査・分析 ⑥実施報告書作成⇒R7. 2月
事業実施時における市との役割分担	【団体】学童保育と放課後子供教室における囲碁の出前講座を通じ、児童の遊び時間の充実と、子どもたちの人間力育成と共に、地域・多世代交流による安心感と自己肯定感の醸成、教育現場の負担軽減などを図る。 【市】①教育総務部および学童保育・放課後子供教室への連絡・調整・アドバイスなど。 ②事業の目的は、囲碁の遊び方を教えるに止まらず、根底に「子どもたちの生きる力・未来を拓く力を育む事業」であるとの理解。
事業の成果	①囲碁出前講座の実績 ＜令和6年度＞ ★訪問学校数：18校 ★訪問回数：29回 ★受講児童数：延べ605人 ＜3年間では＞ ★訪問回数：86回 ★受講児童数：延べ1,705人 ②事業継続のしくみ構築 ●事業の理念と目的を達成 ●教育現場の恒例事業として定着 ●囲碁愛好家有志と星野学園囲碁部の協力を得てキャラバン隊の充実
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	私たちが、子どもの囲碁普及活動にこだわるのは、今後ますます難しい社会になっていくであろう子どもたちの未来において、最も大事なことは、子どもたちが自分で考え、判断し、行動する力を身に着けてほしいから。それを、囲碁という知的ゲームを通じ、算数や国語といった授業より、もっと根源的な人間力育成に役立つと考える。よって、キャラバン事業を、単に教育分野の話だからと狭小的に捉えず、子どもたちの未来を拓く事業なのだと理解を求めたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	参考資料として添付した「川越igoまち倶楽部とは？」に記載した、当会実施の様々な事業はボランティアで行っている。キャラバン事業が数回のお話ならまだしも、年間これだけの回数に対応する講師たちに、さらなるボランティアを望むのは酷な話。キャラバン事業が継続すれば、親子囲碁教室・市民と観光客の親子が楽しむ川越igoキッズまつり（毎年、5月3日、蔵里広場）、本丸御殿での親子囲碁教室、秋の川越囲碁まつりなどへの連携・展開も視野にあり、せめて、キャラバン隊員の交通費程度の予算措置を希望する。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

川越 igo まち倶楽部とは？

■組織

- ・2012年11月設立の任意団体
- ・理事・運営委員・顧問と一般会員で構成し、個々の特性を生かして運営（会員数92名）

■コンセプト

囲碁に社会性を付加し、次世代育成・多世代交流・文化創造・観光振興・他団体との連携など、地域活性化につながる囲碁普及事業を展開。中学校の囲碁部創設も視野に。

■将来イメージ

囲碁が、まちの自然な風景として当たり前のように存在し、まちのあちこちで、自由に囲碁を楽しめる開かれた囲碁環境を創出。知性と理性に裏付けられた「囲碁のまち・川越」を目指す。

■主な事業

<恒例事業>

- ・親子囲碁教室（月2回、蓮馨寺またはウエスタ川越／文化庁の補助事業）
⇒毎回10数名の講師できめ細やかに対応、子育て家族の安心できる居場所としても機能
- ・オンライン囲碁レッスン（月2回、講師は囲碁インストラクター）
- ・小江戸まちかどigoサロン（月1回、仲町観光案内所／市民も観光客も気軽に囲碁体験）
- ・川越igoキッズまつり（毎年5月3日、蔵里広場／市民も観光客もスタッフも楽しく）
- ・川越市総合文化祭（年1回、公募の参加者と囲碁教室の生徒による囲碁のワークショップ）
- ・川越ジュニアigoまち戦（少年少女級位認定大会／市の文化団体連合会文化祭事業として）

<重点事業>

- ・**がくどうigoサポート&キャラバン事業**（市との協働事業として行う囲碁の出前講座）
⇒市内32の学童保育と3つの放課後子供教室が対象
★キャラバン隊派遣実績：2年間で 57回訪問し、延べ1,100人の児童が受講

<その他事業>

- ・川越囲碁まつり（原則秋に開催、蓮馨寺講堂と広場・蔵のまち）
- ・お城 de 囲碁（親子・観光客が本丸御殿で囲碁体験）
- ・棋聖戦（市民力を生かす川越ならではの企画として、これまでに3回誘致）
- ・他団体との連携
⇒塙保己一学園、星野学園囲碁部、川越高校同窓会くすのき囲碁クラブ、まちづくり川越、
他市の学童保育、商店街、キモノで囲碁、ヒカルの碁プロジェクト、コエトコ など
- ・冊子「川越のひとカ・囲碁力・地域力」～みんなで楽しく、囲碁で、まちづくり 発行
⇒全国各地の囲碁団体・市民活動団体・自治体・国の地方創生などで活用

<表彰>

- ・コープみらい 地域かがやき賞
- ・第 68 回読売教育賞 優秀賞
- ・キワニス社会公益賞（※キワニスクラブとは、ロータリークラブやライオンズクラブと同じ世界三大社会奉仕団体の一つで、子どもたちの幸せのための活動を行っている）
- ・日本棋院普及活動賞(3回受賞)
- ・日本棋院創立100周年記念 功勞表彰(2024.7)

■川越 igo まち倶楽部のフェーズ／これまでと、これから

★フェーズ1：囲碁の見える化

（囲碁界の倫理でなく社会とつながる囲碁、誰でも囲碁、楽しさが伝わる囲碁）
⇒川越囲碁まつり、棋聖戦、川越 igo キッズまつり、まちかど igo サロン

★フェーズ2：囲碁を通じて子どもたちの未来を拓く

（子どもを取り巻く環境や、子育て家族・教育における社会課題解決につながる囲碁）
⇒親子 igo 教室、がくどう igo サポート&キャラバン事業

★フェーズ3：「囲碁のまち・川越」宣言！

（囲碁がまちの中に普通にある風景、姉妹都市交流／今後の取り組み）
⇒市内の施設・店などの協力を得て、まちのあちこちに囲碁の初心者体験できる場を創出

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業
団体名	仙波の田んぼ緑肥の会
市担当課名	農政課
事業の目的	小さくても密度の濃いコミュニティを形成することを目的とする。
事業の実施内容	4月27日(土)イベント「ストロベリーキャンドルの花咲く田んぼでたのしもう！」 45名 5月5日(土)卓球愛好会様『懇親昼食会』 16名 6月3,4,5日 イベント『田植え体験』6名 6月29日(土)イベント『チェーン除草体験』 16名 8月26日(土)イベント「夕涼み」 18名 10月07日(土)イベント「新米試食会～3種類の新米と豚汁を味わう～」 15名 12月10日(土)イベント「餅つき会～つきたてお餅を味わい、お飾りを作る～」24名 ＜会報＞田んぼだよりVol.1～8号を発行し、LINEで配布。 ＜PR活動＞「おいしい川越」Instagramでの周知 ＜地域貢献・知名度向上＞せんばマルシェに4回参加
事業実施時における市との役割分担	【団体】 実際にイベントの実施。
	【市】 イベント開催へのアドバイス提供。 InstagramでのPR支援。
事業の成果	小さくても密度の濃いコミュニティを形成することを目標とした。 具体的な数値目標として、昨年獲得したファン数（55名）の約1割程度の5名（家族）のサポーターを獲得することとした。 事業の成果として、 ①サポーター 6名 ②ネットサポーター 1名 を獲得した。 更に、 ファン数は、74名へと増加した。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	イベントを経験したファンの中から、正会員を獲得することが課題。 正会員に対するインセンティブの設定がその対応策となると考える。 また、イベントへに積極的に参加できる環境作りが密度の濃いコミュニティ形成に重要と考える。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	米農家の米を全て直販とするためには会員数を大幅に伸ばす必要があるが、現在最もコストが必要となるホームページの構築を進めると共に、並行して正会員の獲得を進め、システム運用を軌道に載せることで、後はクチコミやPRにより近隣住民からファンやサポーターを増やしていく。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業
団体名	川越的場八景蟹ヶ渚再生する会
市担当課名	河川課・環境政策課
事業の目的	川越市大字的場地内の市有地である蟹ヶ渚の再生を継続的に展開し、地域の環境保全と憩いの場を創出する。
事業の実施内容	事業計画に従い、定期清掃活動を実施。 遊歩道整備のため木材チップをすきこむ。耕地整備のため耕耘し、腐葉土・肥料を施す。 情報誌を発行。周辺自治会に回覧配布を依頼。市施設への備え付けを依頼。 サツマイモ苗床を整備し、子ども会育成会・周辺住民と200本の苗さし、収穫を実施。 河川課の協力を得て、水路左岸の民地との境界部に杭を打ち、トラロープにて境界を明確化した。
事業実施時における市との役割分担	【団体】 ・情報誌の配布につき、市施設への備え付けを依頼した。 ・官民境界を明確化するため、境界点確認を依頼した。
	【市】 ・市施設への備え付けを実施していただいた。 ・境界点を確認していただき、当会が杭打ち、ロープ張りを実施した。
事業の成果	・情報誌の発行は、効果を考慮し年度早々に作成し、周辺自治会800部、市施設200部を配布。現地にチラシボックスを設置し、立ち寄り者に持ち帰っていただく。以上のことで当会の活動目的等の理解を深められた。 ・耕地においてサツマイモ苗さし、収穫体験を子ども会育成会と周辺住民と共に実施した。土地の再生をアピールできた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	・会員の拡大 ・当会員が知人等に働きかけを行う
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	定期清掃活動を継続する。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化
団体名	新宿町五丁目自治会
市担当課名	市民部 地域づくり推進課
事業の目的	新宿町五丁目地域内での情報発信のデジタル化
事業の実施内容	自治会内にデジタル化特別委員会を置き、お知らせや回覧物等のデジタル配信、行事のライブ配信、町内防災訓練でSNS安否確認訓練、デジタル機器操作説明会などを実施。
事業実施時における市との役割分担	【団体】 所管課との連携とはじめ産官民学の知恵や工夫と取り入れ波及しうる仕組みを創ります
	【市】 当事業への助言、情報提供、更に事例研究や好事例の発信
事業の成果	自治会内に特別委員会を設置し活動、SNS配信、ホームページ開設準備 ・ 5種SNSを令和6年 70回延33,963人へ配信 ・ 行事のライブ配信 2回、5,772人視聴 ・ イベント録画 36回 ・ 町内防災訓練でSNS安否確認実施 開始30分で44%応答。 ・ スマホ操作講座 令和6年度中5回実施、125人受講 ・ 日常的にスマホ操作問い合わせに対応 ・ LINEを使った“あいさつキャンペーン”の実施 ・ 展開マニュアル作成
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・ 今後の事業は自治会で継続していきます。 ・ 展開マニュアルを関係先へ配布、PRしていきます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	仲町地域交流会活動事業
団体名	仲町青陵会
市担当課名	地域づくり推進課
事業の目的	仲町の子ども達・次世代へ自分の住む町の魅力を知る為の事業です。 仲町とはどんな町か川越祭りに参加する町内とはどんな事をしているかなど、地域を知るきっかけになり、地域の方と交流していくことで、世代を越えて交流を促す事業となります。仲町の町の中にはどんな人が住んでいるのか、どんな商売をしているお店があるのか、蔵の街とはどんな町なんだろうと子供たちが疑問に思っていることも、交流の中で答え合わせをしていく事を目的としています。 更に、今後新たなマンションの建設で新しい世帯が増えることも考えての交流会となります。この事業内容を今後は市内の次世代世帯への参加型交流事業にしたいと考えております。
事業の実施内容	地域交流を図るために、地域交流散歩と仲町マップの作成をして、地域の商店、文化財、公共施設、地場産業特産品の地元の川越唐棧についてなどを記入して自分の住む町を作成してもらいます。また、地域の交流をすすめるために地域交流散歩の開催と毎年開催している交流会バーベキューを一緒に行い、子供たちと子ども世帯の交流を促進します。R6は川越祭りのツアーを実施して地域の魅力創生に努力します 交流散歩行程：自治会館-鍛冶町広場-亀屋-山崎家別邸-須賀人形-松本醤油商店-自治会館(山車小屋)
事業実施時における市との役割分担	仲町青陵会：イベントの企画・運営
	地域づくり推進課：地域づくりに関する情報提供や市HP等によるPR活動。
事業の成果	昨年同様に、仲町の子ども達や住民と街を散策しながら、町の特徴を説明して、仲町の店主などの話を聞くことで、うまく地域交流が出来たことは、今年も成果でありました。その後の町内のメンバーとBBQ交流会においても事業内容にある、地域で子供を宝と感じ、地域の方々と町のメンバーが交流を深めていたことが印象的でした。参加した子供たちや親も町にある魅力に気づいたと話してくれ、一定の評価が出来る内容であったと感じています。町の店舗で説明をしてくれた、亀屋・松本醤油の方々も地域の事を知ったうえで、町に住む事で安心した生活を送れると今後も同様な交流事業が欲しいとご意見を頂きました。さらに今年は、川越祭りにて川越祭りの説明をする為にガイドブックを用意して川越祭りの内容や仲町の特徴を知ってもらうためのツアーを開催して、高評価をもらいました。地域に文化財が残っている事を知ってもらい、より地域の事を知りたいと思う事に繋がった方も多くいらっしゃいました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	新たに出来たマンションとの交流を目的に活動をしてきましたが、販売したマンション業者と自治会に対する考えに相違がある為、交流をする前のチラシ配りや説明が出来ないという壁にぶつかりましたが、何とか交流を持てる方から今年も地域交流ツアーに参加して貰えたり、川越まつりには多くの参加者が出たことは良かったです。年に数回継続的にツアーをしていく事が今後も活動の目標を達成する事に繋がると考えました。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	継続的に事業を続けていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	コミュニティラジオで楽しく防災
団体名	株式会社 小江戸FM
市担当課名	防災危機管理室
事業の目的	防災に強いといわれるメディアとしてラジオに強い期待が持たれています。川越市防災危機管理室と協力し、社会的弱者の方、障害を持つかなどを含め、幅広い年齢層の防災意識高めるための宣伝事業を提案します。
事業の実施内容	・9月23日（月・祝）クレアパークにて防災を遊んで学ぶイベント「あそぼうさい！まなぼうさい！」開催し、今年も約500名に会場いただきました。 ・防災番組を制作、放送しました。現在の防災についての課題である避難所のプライバシー問題・ペット防災・防災ラジオを取り上げ、それぞれの専門の方をゲストにお迎えし、お話しいただきました。放送は1回だけでなく再放送も行いました。 ・令和6年10月：避難所における女性のプライバシー問題について（ラジオ放送） ・令和6年11月：ペット防災について（ラジオ放送） ・令和6年12月：防災ラジオについて（ラジオ放送）
事業実施時における市との役割分担	【団体】 株式会社 小江戸FM：イベントや番組の企画、運営
	【市】 川越市防災危機管理室：情報提供、イベントチラシの市内小学校への全校配布、広報での告知。
事業の成果	「あそぼうさい！まなぼうさい！」は親子連れを中心に、たくさんの方にご来場いただきました。子どもさんがワークショップで楽しく参加したり、親子でバケツ火消しレーに夢中になったりと「楽しみながら防災を学ぶ」という点では目的を達成できたかと思います。防災番組は放送を通して、ラジオ川越を知っていただくきっかけづくりにもが繋がれたと思います。特に11月のペット防災ではゲストが担当パーソナリティーの番組に出演していたこともあり、放送後も積極的な交流が続いています。
協働事業として継続する場合の課題と対応策	「あそぼうさい！まなぼうさい！」ではラジオ川越スタッフがそれぞれの得意分野を活かした役割分担をしたことで円滑な運営ができました。一方、細かい点で来場者への周知不足や準備不足もあったことが反省点として残りました。防災番組はゲスト側の協力もあって、しっかりした内容で収録に臨むことができました。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	報告会では「委託事業」でも良いのでは？との意見もありました。その部分も視野に入れていきたいです。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越リージョナルウインドオーケストラ特別演奏会
団体名	川越リージョナルウインドオーケストラ
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	川越市民参加型の当演奏会を通じ参加者の学びと交流を深めながら、川越の音楽文化芸術の向上と魅力あるまちづくりに貢献することを目的とする。様々な事情により既存の吹奏楽団に在籍することが難しいながらも、演奏機会を探し求めている、市内在住・在学・在勤の潜在的なプレイヤーを発掘し、その機会を提供するものです。
事業の実施内容	2024年10月13日の初回練習から9回の練習を経て 2025年2月15日（土）特別演奏会を開催 開演16：00 会場：ウェスタ川越大ホール 指揮：大滝 実（埼玉県下総皖一音楽賞受賞） 演奏出演者64名 観客数実績596名 協賛企業6社、後援：川越市ほか尚美学園大学、東邦音楽大学など その他協力学校埼玉県立川越西高等学校、ほか2学校、5社
事業実施時における市との役割分担	【団体】 市内在住・在学・在勤で吹奏楽活動を希望する方に演奏機会を提供する。市内所在の東邦音楽大学、尚美学園大学とも連携を図る。活動に賛同してくれる企業や団体との関係を築く
	【市】 ・広報誌に①団員募集の告知記事 ②演奏会の告知記事の掲載 ・市内の公民館等各施設のチラシラックへ演奏会のチラシ配布・開催にあたっての諸支援をお願いしました。
事業の成果	広く川越の皆さんに参加していただく事が出来ました。広報かわごえへの団員募集のお知らせから、公演情報、川越市内の文化施設への告知チラシなどの配布など、文化芸術振興課の皆様と一緒にこの演奏会を作っ作り上げ、輝かしい演奏団体を組み立てる事ができました。また川越所在の尚美学園大学と東邦音楽大学の2つの音楽大学との連携が構築でき大学からの推薦者を出していただき団員として参加してくれた他、今後の川越の音楽芸術の発展と明日の担い手である有望な若者たちに演奏の場を提供できました。観客数は596名とまだ生まれたての無名の団体の初めての演奏会としては素晴らしい数が客席を埋めてくれました。初めての試みで事業規模200万円であったが、収支はほぼぴったりでしたので、大成功と言えます。
協働事業として継続する場合の課題と対応策	広報活動や、集客力へつなげるブランド力と演奏クオリティを上げていく事が課題です。また、川越から発信する音楽文化芸術を掲げていますが、一度開催した程度では、大きな輪を築いていけません。失速せず継続していくことが一番大事と感じています。精神的エネルギーも物理的な労力も、時間も、膨大に必要です。気持ちを失わず、しっかり足元も整えて、前に進んでいきたいと思っています。協働事業に取り上げていただき心から感謝をし、次回対策としては、後手に回った広報活動をもっと早期にスタートさせる事と、習熟度を上げクオリティの向上を図ります。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	まだ設立して1年が経ったばかりですが、依頼演奏や、ウィーン（オーストリア）での演奏のオファーがきていたり、世の中からの期待はいただけている事からも事業としては更に前へ進んでいく事になります。運営面では現在のところ補助金の助けは本当にありがたく助かっている状態です。しかし中期的な見通しとしては補助金に頼らずとも続いていく事ができるような効率化やコストの切り詰めを含む運営の体質改善を同時に進めていきます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越にプレーパークをつくろう事業
団体名	川越にプレーパークをつくろうの会
市担当課名	こども育成課
事業の目的	川越市内において、屋外での子供の居場所および身近で自由な遊び場となり、子どもを核とした地域コミュニティの関係づくりの場といった機能を有する「プレーパーク」が不足している状況にある。本事業の連続講座を通じ、講座参加者がプレーパークの活動方針や運営方法、地域での子供の見守り方を学び、将来的に本団体の活動にプレーワーカーとして参画することを目的とする。
事業の実施内容	2024年10月から11月にかけて、『川越プレーパーク運営基礎講座』（全4回）を開催し、座学や現場実習を通じてプレーワーカーとして活動していくためのノウハウを学んだ。講座参加者数は10人、講座最終回のプレーパーク実習では、一般来場者は119人であった。
事業実施時における市との役割分担	【団体】講座提供団体との連携、事業の周知、地域住民への協力依頼、地域の連携役、講座の運営
	【市】広報、市の施策等の情報提供、関係団体への連絡調整、講座会場の提供、講座実施に必要な備品の貸し出し（プロジェクター・遊具等）
事業の成果	・プレーパークに興味・関心のある川越市民が、講座に参加することによって当団体に参入した。 ・座学と現場実習を組み合わせたことで、講座参加者のプレーワーカーとしての基礎知識を習得し、経験を積むことができた。 ・講座参加者が、プレーパークの理念を理解し、プレーパーク開催にあたっての危険管理、環境づくり、子供の見守り方のノウハウを習得できた。 ・講座参加者が、プレーパーク開催後の振り返り会の重要性を理解し、その運営方法を習得できた。 ・環境づくりを学んだことで、講座最終回のプレーパーク実習では、以前実施していたプレーパークよりもこどもたちの遊びの幅が広がった。
協働事業として継続する場合の課題と対応策	・予算より収入金額の自己負担金が多くなった。要因として、参加人数が想定より少なかったことが挙げられる。来年度は、今年度の収支を鑑みて予算決定を行う。 ・講座チラシの枚数が多すぎた。来年度は適正枚数にすることで、支出を抑えることとする。 ・事業実施初年度であり、講座の周知やスケジュール管理が十分ではなかったため、次年度は本年度の経験を踏まえ計画的に実施します。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・本事業の講座内容を参考に、当団体スタッフが簡易講座を実施する。現場実習であるプレーパーク実習のみ、外部講師に依頼する形式とする。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	生きる力と平和の大切さについて共に考える授業
団体名	テレジンを語りつぐ会in川越
市担当課名	教育指導課
事業の目的	今、日々の生活の中で子どもたちは、戦闘状態にある国の状況を新聞やテレビで目にしている。一方で戦争体験を語れる人たちは、大変少なくなり、「アンネの日記」を知らない親たちも多いと聞く。30数年にわたり「テレジン収容所の中で描いた絵」について今も語り続ける野村路子さんの思いを生徒と一緒に考える機会とし、平和の大切さについての気づきと生きる力の育みができたらと願っている
事業の実施内容	① 【訪問授業の実施】 11/29 中央小（5年・3クラス） 12/19 仙波小（5年・4クラス） 1/14 霞ヶ関西中（1年・4クラス） 1/20 上戸小（6年・3クラス） 1/23 仙波小（6年・4クラス） 1/28 寺尾小（6年・2クラス） 2/7 広谷小（6年・2クラス） 約700人の児童・生徒が参加。 ② 11月4日から10日までの7日間、川越中央図書館の展示室にて「アンネ・テレジン・ホロコースト展」を開催。「テレジン収容所の中で描かれた絵」のパネル、アンネ・フランクの生涯、そして33年間の野村路子さんの活動を手づくりで作成し展示。最終日は、野村路子さんの講演「15000人のアンネ・フランクがいた」視聴覚ホールは満席になりました。延べ500人の来館者の方に見ていただきました。
事業実施時における市との役割分担	【団体】訪問授業実施校に事前に伺い、教育指導課で作成した「打合せシート」をもとに学校の要望を最も大切にして意見を交換しながら当日の授業がより意義のあるものになるように努める。 【市】訪問授業の実施希望校を募り、日程など団体との調整、また実施にあたっての事前の学校側への要望等の調整をきめ細かく連絡を密にし、実施校と、団体との連携を図る。
事業の成果	訪問授業は、児童・生徒たちの集中して聞く様子に驚かされるほどでした。野村路子さんがすぐ目の前で語り掛ける一つ一つの言葉が心に届いた表れと思いました。毎日接っている先生方との授業とはちがう野村路子さんとの出会いの中で自由に意見や感想を述べ、野村路子さんへの質問などは時間が足りないほどでした。先生方からも「私たちにとってもいい勉強になりました」と。 11月の展示会は、なかなか秋の気配が訪れず暑い日でしたが、図書館の展示室はゆったりとしていて展示した掲示物をゆっくり時間をかけて見ていただけました。中央のテーブルには関連の図書を自由に閲覧していただけるようにスペースを設けました。本の続きを読むために何回もいらした人もいました。 訪問授業に先立ち少しでも児童・生徒の皆さんに野村路子さんの事、アンネの事などを知って欲しいと企画しましたが、残念ながら来場者の中に小・中学生はあまりいませんでした。次回の時にはその点を改善して周知のしかたなど考えて行かなくてはと思いました。
協働事業として継続する場合の課題と対応策	訪問授業の開催日の調整や学校との連携をさらに深めていきたい。折角できた野村さんと生徒の皆さんとのつながりをなんらかの形で今後も続けていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	訪問授業の実施後の感想文からも野村路子さんからじかにお話を聞く体験が児童生徒にとっていかに深く心に残り意義のあるものであったかを知り、今後も続けていきたいと考えている。

※様式第8号 「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙
団体名	川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙実行委員会
市担当課名	広報室
事業の目的	川越に住んでいる方、川越で活躍する企業の方々、川越に観光で訪れる方が「自らの好みでキャラクターの女の子を選ぶ・投票する」という経過「選挙結果を楽しんでもらうこと」により、街により愛着を持ってもらう。また、観光客の再訪を促す。華やかな選挙ポスターや販促品が川越の街をより明るく楽しく盛り上げる。
事業の実施内容	川越推しガール総選挙の実施。 投票期間：7月上旬～9月1日（日） 投票方法：掲示・特設サイト 計26箇所 投票にご協力頂いた団体数：23 投票者数：16,387人 投票結果発表：9月15日 10月1日（火曜）から許可制でイラストを無償提供スタート。「小江戸川越ほの香」無償提供の広報活動、ポスター掲示やチラシ配布など9月15日～12月15日市内で行う。
事業実施時における市との役割分担	【団体】ポスター・投票ボードの企画制作、投票用オンラインサイトの構築と公開。投票結果の集計と開示。
	【市】公共施設へのポスター掲示・市役所内への投票場所設置、市内広報誌への記事掲載。
事業の成果	川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙は、川越市民や川越を訪れた方々から予想を163%も上回る、1万6千票を超える投票があった。皆さまに選ばれた「小江戸川越ほの香」ちゃんは、今後、川越市の魅力を国内外に発信し、川越市の新しい顔として活躍予定。 10月1日（火曜）からは許可制でイラストを無償提供もスタート。川越市内の企業や団体からの問い合わせが多数あり、ラッピングバスや宿泊施設のコンセプトルームなどの企画が進行中。
協働事業として継続する場合の課題と対応策	今回の協働事業実施における改善点 ・事業決定から実施までのスケジュールが短期間だった為、投票場所や協力店がなかなか決まらなかった。早い段階で、広報室との協議や協力店を募る必要があった。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	補助金終了後もイラストを無償提供予定。川越の地域の魅力を伝える役割として、各企業や団体とコラボ企画を実施し、キャラクター関連の商品販売やイベント開催により、地元産業への波及効果を促進予定。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和6年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	ほしおさなえ作品の世界をめぐるスタンプラリー
団体名	學のまちkawagoe実行委員会
市担当課名	川越市立中央図書館
事業の目的	作家ほしおさなえ先生の作品で主に川越を舞台にした作品で、実在するスポットなどをスタンプラリーで巡り、作品を通して地域文化、また本や文学に触れる機会を創出します。
事業の実施内容	①スタンプラリー（7カ所スポット巡りののち、ノベルティの冊子を配布。引き換えは400名） ②11/2ほしおさなえ講演会（りそなコエドテラスにて食事付き、29名参加。） ③11/2活版印刷WS（文星舎にて開催、29名参加） ④十文字学園女子大学・新嶋ゼミ学生による活版印刷しおりの作成・配布 ⑤広報としてチラシ・ポスター配布及びコエドノコトペーパーの広域配布を実施 ⑥川越市立図書館にて関連書籍および活字や説明パネルの展示
事業実施時における市との役割分担	【 団体 】 企画実施における実作業をとおり、地域との連携を図ることで、観光の側面以外に新しい川越の文化的側面を発信する。
	【 市 】 川越市を含む広域へのイベント周知、より文化的な都市へのステップアップ
事業の成果	スタンプラリーは好評で、約2週間で400名の引き換えあり。11/2同日に行った活版印刷のWSとほしおさなえ講演会についてはほぼ満席、来場者には北海道、群馬、千葉、愛知など全国から初めて川越に来た方もいらっしやった。また十文字大学の学生とのコラボでは、活版印刷のしおり作りを自分たちでデザインするだけでなく、活版の手動機を操作して実際に印刷を行った。ポプラ社、角川春樹事務所、KADOKAWAの全面協力があり、Twitterなどでの拡散力があつたと考えられる。また出版社協力により、ほしお作品の総まとめオリジナル冊子（制作協賛：櫻井印刷所）を作成・配布により、多くのファンが集まった。【アンケート・聞き取り】鉄道駅にてフリーペーパーを見てきた/ほしお作品は知らなかった/読んでみたい/スタンプが可愛いので、集めるために全スポットを回った/川越観光は何度も来ているが、切り口が面白いと参加したくなる 等
協働事業として継続する場合の課題と対応策	①川越の魅力をより文化・歴史を中心にPRしていきたいが、講演会などもできれば数回行いたい。協賛募集など費用の工面に苦労する ②内輪の盛り上がりにならないように、東京方面も視野に広く周知させたい
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	今後もスタンプラリーや講演会の企画は継続したいと考えている。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。